

平成23年度 財団法人新潟県都市緑花センター事業計画

1 センター事業会計事業計画

財団法人新潟県都市緑花センターの基本財産の運用益等により、「緑豊かなまちづくりに向けた緑花の推進」「ISO 環境マネジメントシステムの推進」「県民とともに公園を育てる」をキーワードとして事業を行う。

(1) 都市緑化における調査及び研究事業

①芝生地の管理に関する調査研究(継続)

新潟の地域特性にあった芝生地の管理手法を確立しコスト削減を図るため、平成20年度より鳥取県で実践されているローコスト芝生地造成管理の手法に基づき、新潟県スポーツ公園(平成21年度より試験面積6,000㎡)、紫雲寺記念公園(平成20年度より試験面積2,700㎡)、県立植物園(平成20年度より試験面積700㎡)にて試験施工を実施しており、今後の育成管理にかかる管理コストの調査を継続する。コスト削減及び品質向上に欠かせないポット苗の品質を高めるための育成調査を新たに実施する。また、前年度に関わった新潟市教育委員会の校庭芝生化モデル校(新潟市立鏡淵小学校)の管理データを収集するなど、調査研究を継続する。

新規調査 : ポット苗育成試験

②ISO14001 環境マネジメントシステムの推進(継続)

平成22年12月に認証更新した環境マネジメントシステムの更なる発展に向けた取り組みを行い、環境への意識の高揚を図る。

(2) 都市緑化に関する普及及び啓発事業

①花と緑のアドバイザー派遣制度(継続)

制度の積極的な活用を進めるため、教育施設などに事業紹介チラシで広くPRする。各種開催団体が実施する緑化講演会、緑化学習会等に派遣するとともに、当センターが企画する自然観察会等においても積極的に活用する。

②広報活動の充実(継続)

都市緑化に関する知識や当センターが指定管理者である公園での取り組み等の情報を広く県民に提供するため、情報誌(Green sketch)を年2回発行する。

ホームページでは、情報誌の内容とホームページを連携させるとともに、当センターが管理運営する公園等でニーズの高い情報を順次掲載するなど、内容の充実を図る。

③写真コンテストの開催（継続）

まちの中の緑や花を増やし、守り育てる意識を高めるため、都市公園の魅力、まちなかの緑の効用など、写真を通して都市緑化の普及啓発を図るためのコンテストを開催する。入選作品については、新潟県スポーツ公園や植物園等で作品展を開催するほか、広報誌等で活用する。今後、県内の都市公園等を加えるなど、対象場所の拡大を検討し、更なる事業の充実を図る。

④緑花フェア等イベントの開催

当センター及び新潟県が主催、後援するイベント、緑化推進団体が開催する都市緑化イベントを通して、緑化意識の普及・啓発に努める。

全国都市緑化にいがたフェア記念特別会計が平成22年度で終了することに伴い、同会計で実施していた次の事業をセンター事業会計に移行する。

ア) 春の都市緑花フェア：新潟県スポーツ公園（新潟市） 平成23年4月29日

イ) 緑化イベント協賛：フラワーウェーブにいがた他 平成23年4月～平成24年3月

（3）都市緑化に関する保全及び推進事業

①花と緑のパートナーづくり事業(継続)

緑豊かな潤いあるまちづくりを推進するため、都市部や主要な観光地の県管理施設や市町村管理の小中学校において、ボランティア団体、企業、民間団体や学校等が実施する緑化活動に対して助成する。

2 鳥屋野潟公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立鳥屋野潟公園（新潟県スポーツ公園北地区）の管理・運営をアルビレックス新潟・都市緑花センターグループとして行うもの。

(1) 事業の概要

都市公園名	所在地	管理面積	H23予算額	H22予算額	増減	対前 年比
			(A)	(B)	(A-B)	
鳥屋野潟公園（スポーツ公園北地区）	新潟市 清五郎 地内	44.8ha	500,234	495,758	4,476	100.9%
		スタジアム	309,981	305,245	4,736	101.6%
			12,352	12,612	▲260	97.9%
		園地	177,901	177,901	0	100.0%

(2) 事業計画

① 管理運営の基本方針 ～自然とスポーツの大規模都市公園での「場」の提供～

東北電力ビッグスワンスタジアムを中心とするスポーツ公園北地区には、常に憩い、安らぎ、賑わい、美しさ、楽しさ、感動の「場」がある。野球場を中心施設とする南地区を加えてより充実した公園とするために「自然」と「利用」の調和のとれた管理運営に努め、様々な「場」を提供していく。

ア) 県内スポーツの殿堂

- ・トキめき新潟国体の選手強化や国体で使用された実績をもとに、さらなる競技力向上に向け各競技団体との連携に努める。
- ・大規模イベントを中心に可能な限り利用希望にそえるよう各競技団体・利用団体との調整に努めます。また、南地区のエコスタジアムにおける大会・イベントなどの開催にも配慮して調整に努める。

イ) 気軽にスポーツを楽しめる場

- ・「ビッグスワン」、「スワンフィールド」は大会での利用が主であるが、園地の多目的運動広場では野球、サッカー、ラグビーなどより幅広く気軽に利用できるように努める。

ウ) 文化・イベントの舞台

- ・コンサートなどの大規模イベントの誘致を積極的に行うとともに、展示会等の小

規模イベントの誘致にも努め、利用者ニーズに応えるよう努める。

エ) 貴重な自然の財産を守り、活用するために

- ・自然環境の保全、再生に努め、木を大きく、花を美しく育て、豊かな園地を創出します。
- ・ビッグスワンと園地の調和の取れた景観を意識した質の高い管理を行い、さらなる魅力アップにより、利用者の満足度向上に努める。

オ) 地域活性化の拠点

- ・県民の交流拠点の場として、地元アーティストによる「カナルコンサート」の開催や、地元団体等と連携し、観察会や教室などの参加型イベントを実施する。
- ・ビッグスワンで開催される大会やイベントを地元業者に紹介し、参加・協力を得るなど地域活性化の貢献に努める。

カ) 安心安全なスポーツ公園

- ・ビッグスワンでは、定期的に施設の保守点検を行い、また園地では定期的な巡回を行うとともに、所轄の警察署・消防署からも協力いただき、公園利用者が安心して快適に利用できるように努める。
- ・災害時には、公園のオープンスペースが様々な活用が考えられることから、地域の防災計画と連動して都市防災の一翼を担っていく。また、ビッグスワンを災害救助訓練の場として利用できるよう協力していく。

②利用計画

ア) 東北電力ビッグスワンスタジアム

a) サッカー

- ・キリンカップ日本代表戦、Jリーグ・ヤマザキナビスコ杯、なでしこリーグ、天皇杯、国際ユースサッカー決勝、県高校サッカー決勝、少年サッカー大会等

b) ラグビー

- ・トップリーグ

c) 陸上競技

- ・新潟県高校総体陸上大会 2012 インターハイリハーサル 等

d) その他

- ・青陵高校体育祭、鳥屋野中学体育祭、高志中等教育学校競技会、真人幼稚園マラソン大会、スポーツ用品店展示会等

イ) 自主事業

a) スポーツ公園フェスタ

(昨年の実施概要)

- ・サッカー、ラグビー、陸上の各トーク・スポーツ教室、少年ラグビービッグスワンカップ、フリーマーケット、バックヤードツアー等

b) 新春フェスタ

- ・トラック無料開放、餅つき大会、キャラクターショー、バックヤードツアー等

c) 都市緑花フェア

- ・少年サッカー大会、バックヤードツアー

3 野球場公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立鳥屋野潟公園（スポーツ公園南地区）の管理・運営をアルビレックス新潟・都市緑花センターグループが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位：千円)

都市公園名	所在地	管理面積	H23 予算額	H22 予算額	増減	対前年 比
			(A)	(B)	(A-B)	
県立鳥屋野潟公園(スポーツ公園南地区)	新潟市中央区長潟地内	14.9ha	147,583	130,136	17,447	113.4%
		野球場	107,782	104,847	2,935	102.8%
			13,034	0	13,034	—
		園地	26,767	25,289	1,478	105.8%

(2) 事業計画

①管理運営の基本方針 ～県民一人が年1回利用する公園に～

スポーツ公園（北地区）と合わせ、「新潟県スポーツ公園」全体の年間利用者数を新潟県の人口とほぼ同数の240万人を目標として利用促進に努める。

ア) 新潟の野球レベルの向上

- ・プロ野球が開催可能な球場であり、ハイレベルなプレーを間近で観戦し、且つグレードの高いグラウンドで実際にプレーすることにより、新潟の野球レベルの向上が大いに期待されることから、関係団体との強固な関係の下で、プロ野球やBCリーグの誘致を図り、新潟における野球文化の向上に努める。

イ) 安全、安心の提供

- ・北地区での経験と技術を活かし、利用者の全てが安心して過ごせる空間の創出に努める。
- ・広域避難場所としても、その機能を最大限に発揮できるように努める。

ウ) より多くのニーズに応える公園管理

- ・「新潟県スポーツ公園」として、県民にスポーツを通じて、健康、楽しさ、感動、喜び、憩いを提供する管理に努める。
- ・より多くのニーズに応えられるよう、北地区が賑わう時には南地区で安らぎを、南地区が賑わう時には、北地区で落ち着いた空間を提供するなど、一体管理のメリット存分に活かし、満足度の向上に努める。

②利用計画

ア) ハード オフ エコスタジアム新潟

a) プロ野球の開催

5月8日(日) 横浜ベイスターズ VS 阪神タイガース
(主催:新潟放送)

7月19日(火) 20日(水) 読売ジャイアンツ VS 中日ドラゴンズ
(主催:読売新聞社)

8月23日(火) 埼玉西武ライオンズ VS オリックス・バファローズ
(主催:新潟日報社)

b) BCリーグ 新潟アルビレックスベースボールクラブの試合の開催

4月10日(日) 対群馬ダイヤモンドペガサスから 12 試合開催(予定)

c) 主な全国大会、北信越大会、県大会の開催

JABA(財団法人日本野球連盟) 選抜新潟大会(社会人野球)

北信越地区高等学校野球大会新潟県大会

都市対抗野球二次予選北信越大会

第93回全国高等学校野球選手権新潟大会 準々決勝、準決勝戦、決勝戦

北信越高等学校野球大会北信越大会 準決勝、決勝

イ) 自主事業

- ・プロ野球開催時において、主催者の運営補助のため、チケット販売などを行う。
- ・利用者の利便性向上のため、売店営業や公衆電話設置などを行う。

4 紫雲寺記念公園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立紫雲寺記念公園の管理運営を当センターが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位:千円)

都市公園名	所在地	管理面積	H23 予算額	H22 当初予算額	増減	対前年比
			(A)	(B)	(A-B)	
紫雲寺記念公園	新発田市 藤塚浜地内	82.4ha	148,897 (104,471)	147,889 (103,463)	1,008 (1,008)	100.7% (101.0%)

※下段()は屋内運動施設管理委託料を除く(平成23年度44,426千円、平成22年度44,426千円)

(2) 事業計画

①管理運営の基本方針～すべての世代、多様なニーズに応える～

多様な機能を持つ県立紫雲寺記念公園の管理運営において、公園を訪れるすべての世代の方々の多様なニーズに対応し、満足してもらえるよう管理運営する。

そのために以下の公園を構成する各ゾーンの特徴を職員全員が理解し、長所を存分に引き出すための管理を実施する。

- ア) 海水浴・親水ゾーン
- イ) 海岸森林浴と憩いのゾーン
- ウ) 健康運動ゾーン
- エ) 文化交流と憩いのゾーン
- オ) 自然観察・研究ゾーン

管理運営するにあたり、「基本は安全、安心から」をモットーに常に利用者に対して安全、安心を提供する。

①主要実施項目

ア) 海水浴・親水ゾーン

- ・新発田市に安全サービスセンターの場所を提供して安全連絡員を配置し、藤塚浜海水浴場の事故防止等の安全サービスを提供することで安全で快適な海水浴場の運営を図る。
- ・新発田まつり海上花火やビーチバレー大会、学校教育活動の場等として活用してもらう。

イ) 海岸森林浴と憩いのゾーン

- ・オートキャンプ場は、供用日の拡大による利便性の向上や料金引き下げ等によるサービスの向上を図る。

ウ) 健康運動ゾーン

- ・チューリップ広場は、華やかな花々を植栽管理し見ごたえのある広場とする。
- ・地域住民と連携してチューリップや花苗の植付け等の花壇管理を行う。
- ・多目的運動広場は、的確な管理を生育状態を見ながら適期に管理するとともに利用者のマナー向上に努めて、良好な芝生を提供する。
- ・屋内運動施設の供用日を拡大して利便性の向上を図る。
- ・温泉施設「紫雲の郷」と連携を強め、屋内運動施設（プール・体育館）や温泉施設を利用した健康教室を行う。

エ) 文化交流と憩いのゾーン

- ・安全、安心を提供するため、遊具は日常点検のほかに専門業者による定期点検を年1回行う。
- ・松くい虫等により枯損した樹木を炭焼き施設により炭化させ再資源化する。

オ) 自然観察・研究ゾーン

- ・愛鳥センターと連携して探鳥会を行う。

カ) その他（公園全体として）

- ・安全、安心を提供するため、毎日のパトロールや月1回の重点パトロールで植栽の生育状況や設備、遊具等の目視点検を行い、安全を確認するほか、職員に対して救急法を含めた安全衛生教育を月1回行う。
- ・美しい自然景観を形作っている松林を保全するために、松くい虫予防のための樹幹注入や下草刈り、被害拡大を防ぐための伐倒処理（発生状況により春と秋～冬の年2回）を行う。
- ・地域住民や園内施設、行政機関等との連携により、円滑な公園管理運営を図る。各種イベントへの参加や支援することで地域の活性化を図る。

5 植物園事業会計事業計画

新潟県都市公園条例第15条の3第1項により、県立植物園の管理・運営を当センターが行うもの。

(1) 事業の概要

(単位：千円)

都市公園名	所在地	管理面積	H23	H22	増減	対前年度比
			予算額	予算額		
			(A)	(B)	(A-B)	
県立植物園	新潟市秋葉区 金津地内	19.8ha	271,150	275,900	△4,750	98%

(2) 事業計画

①管理運営の基本方針

県立植物園が目指す植物園像

ア) 四季を通じて楽しめる魅力的な植物園づくり

イ) 貴重な植物・自然の保全及び自然環境教育の場としての植物園づくり

ウ) 植物に関する情報発信、啓発活動の拠点としての植物園づくり

エ) 「にいがた緑の百年物語」と次世代を担う青少年の活動拠点としての植物園づくり

オ) 世界に通用する植物園づくり

カ) まちづくりと地域振興の拠点としての植物園づくり

②主要実施項目

ア) 四季を通じて楽しめる植物園

- ・早春のスイセン、春のツツジ・ボタン、夏の水生植物、秋の紅葉など四季折々楽しめる園地の整備
- ・園地の植栽を利用したチューリップのウェルカムガーデン、ボタンまつり、オオオニバスの試乗体験会等の開催
- ・県民参加型イベント（ミニガーデンコンテスト等）の実施
- ・温室内に熱帯産シャクナゲやツバキ、日本の熱帯産の絶滅危惧植物を植栽
- ・「新潟の地域性」「華やかさ」「文化・教育」「家庭園芸の普及」をテーマとした企画展示

イ)「教育」—楽しく学べる植物園—

- ・園内を使った小中学校向け教育プログラム利用呼びかけ
- ・子供向けの植物・園芸体験教室の開催
- ・大学インターンシップ・学芸員実習の受け入れ

ウ)「貴重な植物の保全」—豊かな新潟の自然と園芸文化を守る—

- ・植物の重要性を知ってもらい、技術的な支援を行うための展示、教室、講演会、シンポジウムの開催
- ・絶滅危惧植物・絶滅危惧園芸植物の収集
- ・(社)日本植物園協会「植物多様性保全拠点園」としての保全活動

エ)「調査・研究」—園芸産業振興に貢献—

- ・園芸史調査
- ・絶滅危惧植物の保全に関する調査
- ・ツツジに関する研究
- ・アザレア新品種育成への協力

③新たな経営戦略 利用者増のための方策

- ・入館料の改定（学生割引の実施、校外学習の小中学生無料化）
- ・供用日の変更（正月 1 月 2 日から開館）
- ・(学) 国際総合学園と連携したイベントの実施
- ・3 月に新潟市内各地で行われる花イベントと連携し、周遊型イベント「春一番、にいがた花三昧。」を開催
- ・ブログ・メールマガジンによる広報
- ・電子書籍の出版など

6 収益事業会計事業計画

(1) 請負業務

施設名	施工地	予算額(千円)
新潟県都市緑花フェア開催委託	新潟市中央区長潟地内	1,000
合計		1,000

(2) 寄付行為第4条(5)に基づく、物品販売事業等の収益事業

公園名	事業内容
鳥屋野潟公園	① レストランの営業 ② 自動販売機事業 11台 ③ 売店事業 ④ 公衆電話事業 2台
紫雲寺記念公園	① バーベキュー卓利用管理事業 7卓 ② 炊事棟「釜」管理事業 4口 ③ 自動販売機事業 5台 ④ 売店事業
植物園	① カフェテリアの営業 ② 売店事業 ③ 自動販売機事業 4台 ④ 公衆電話事業 2台
その他	① 図書の販売 「里山の植物」の販売 「ようこそ緑の夢王国」の販売

(3) 指定管理公園内の緑花センター自主イベント開催

自主イベント開催時の物品販売等にかかる事業

公園名	事業内容
植物園	① 春の植物園まつり(5月4日、5日) ② 秋の植物園まつり(9月18日、19日)
紫雲寺記念公園	① チューリップフェアの開催(4月29日)